

- 議長（河野） 3番、浜口清海君。
- 3番（浜口） はい、議長。 3番、浜口清海。
- 議長（河野） 浜口君。
- 3番（浜口） はい。
- 議長（河野） なお、浜口君は一問一答であります。 1問目の質問を許します。
- 3番（浜口） 通告に従いまして、一般質問をいたします。

「小中学生への登下校時の交通安全を問う」。

今年も3月を迎え、こども園の卒園式、小学校・中学校の卒業式、新たな旅立ちの季節となりました。そして、来月4月には、桜の花が咲くとともに、新入の園児、生徒を迎える明るく華やかで嬉しい季節を迎える、素晴らしい春が始まります。

ところで、昨年より昭和小学校の通学路の安全では、父兄の方々からその安全面での要望・要請があり、一部は建設課が対応し解消できた問題点はあるものの、残された課題は建設課の方で改善案、対応策を検討しております。以下の2点について質問いたします。

1、小学新1年生への登下校時の交通安全教育及び在校生への再教育

町内5校の小学校には、本年4月に新1年生が164名入学いたします。

新1年生は特に交通安全の教育をすると思いますが、どのように安全教育をしていくのでしょうか。そして上級生の生徒たちも安全で、事故なく登下校できるよう通学路の安全面での再点検、再確認は必要だと考えますが、本町としてどのように指導し、点検していくのかを問います。

2、中学生の自転車通学の安全教育

綾川中学校の通学においても、安全面での再確認が必要です。特に、自転車通学では、自動車の往来が多い県道があり、接触事故や人身事故等の発生がないように、注意し、安全教育をしていく必要があると考えますが、いかがでしょうか。

以上です。

- 議長（河野） 松井教育長。
- 教育長（松井） はい、議長。
- 議長（河野） 教育長。
- 教育長（松井） はい。
- 教育長（松井） 「小中学生への登下校時の交通安全を問う」ということで、質問にお答えいたします。

まず、小学校1年生への交通安全指導につきましては、各校へ高松西警察署から講師をお招きして交通安全教室を開催しております。各校近隣の道路では、信号機の見方や横断歩道の渡り方など、実際にご指導をいただいております。

次に、小学校における在校生ですが「自身の身は、自分で守る」という観点を踏まえ、安全な通学ルートの確認、交通ルール・マナーの徹底、担任からの指導はもとより、朝礼や全校集会等で随時指導、登下校時には、地域の交通指導員やボランティアの方々による交通見守り活動、教職員の交通立哨などを行っております。また、安全な通学路の確保については、令和6年度から通学路の安全確保事業要綱を策定し、対応をしているほか、「綾川町通学路交通安全プログラム」を策定し、高松西警察署ほか関係機関と連携し、各小学校区の通学路の危険個所の安全対策を検討しております。

なお、今年度は自転車用ヘルメットの購入補助事業を実施したことに伴い、全小学校で自転車交通安全教室を開催して、安全な自転車の乗り方やヘルメット着用の指導も行っております。

次に、中学校新1年生につきましては、高松西警察署から講師を招き、自転車の交通安全教室を行い、自転車の安全な乗り方やヘルメットの着用についてご指導をいただいております。その他、中学校近隣を一緒に歩いて、危険個所等についての現地確認も行っております。毎年、新1年生は年度当初に、自転車運転の技術が未熟なため、接触事故が数件発生しておりますが、近年、小学校における自転車教室を開催する機会が減っていることも起因していると考えられます。今後の検討課題としていきます。

また、登下校時には、随時保護者や教職員が立哨活動を行い、交通安全の呼びかけを行い、新たに把握した危険個所があれば、朝礼時や昼食時に注意喚起を行っております。今後とも、地域の方を含め関係機関や団体との連携を図り、情報収集に努め、交通安全対策においての子どもたちの命を守る働きかけ、指導を行ってまいりたいと思っております。

今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○3番（浜口）はい、議長。

○議長（河野）浜口君。

○3番（浜口）はい。

○3番（浜口）ご答弁ありがとうございました。再質問ですが、私のところには特に畑田、後久、向山、茶円原方面からの昭和小学校への通学路の安全が父兄の方々から大きく改善要望が、強く望まれております。

すでに建設課は対応していただいておりますが、一部対応していただいておりますが、今後、建設課、経済課の対応要請しております。今後の、対策・対応策を問います。

要望しておりますけれどもその対策については、どのようにされるかを教えていただければと思っております。

○議長（河野）田岡建設課長。

○建設課長（田岡）議長。失礼をいたします。浜口議員さんの再質問の方にお答えをいたしたいところではございますけれども、常任委員会の方で、また、どういった状況かをご説明させていただけたらと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

以上でございます。

○3番（浜口）申し訳ございません。私のほうからも場違いな質問になってしまいました。重ねてお詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○3番（浜口）はい、ありません。

○議長（河野）以上で浜口君の1問目の質問が終わり、2問目の質問を許します。

○3番（浜口）はい、議長。

○3番（浜口）続きまして、「小中学生が夢を持つ教育をどのようにしているか」。

令和7年も正月が過ぎ、あっという間に3月になりました。今年も必ず大晦日がやってきます。時の経つのは早いもので、全世界の人々に平等に、必ず10年後は来ますし、日本国民にも必ず30年後も来ます。

そのように30年後には、中学生の皆さんが日本の中心メンバーとなって、この国を支えていっていることと思います。また、小学6年生は40歳を超え、1年生は40歳前で皆が働き盛りとなると思います。今年、開業、稼働し始める生成AI企業が綾川町で稼働する。そのようなハイテク産業の会社を創業するような夢を、または医者になる、パイロットになるような夢を、望みをもってほしいと思います。

そしてまた、農業や、製造会社、配送会社、スーパーマーケット等々の会社を起業して社長になる。いろいろな夢をもって行動し、実行し、夢を実現してほしいと思います。

このように、会社を創業するような、会社のトップを目指すような、夢を持てるような教育をするのかを質問いたします。

○教育長（松井）議長。

○議長（河野）松井教育長。

○教育長（松井）はい。

○議長（河野）教育長。

○教育長（松井）浜口清海議員「小中学生が夢を持つ教育をどのようにしているか」ということでございます。

小中学校において、希望や夢を持って生きることや働くことの意義を理解し、主体的に行動しようとする態度を育てることは重要であります。現在、発達段階に応じた体系的なキャリア教育において、社会・職業との関連を重視し、実

践的・体験的活動の充実が求められております。小中学校においては様々な体験活動を教育活動に位置付け、多様な人とのかかわりを大切にしながら充実を図っています。

小学校では、授業の内容に関連して、地域の方やボランティアティーチャーを招聘したり、音楽・芸術などプロの方を招聘し、本物に触れる機会を設けたりしています。先日開催されたハイレゾ社による綾上小学校のプログラミング教室もこの一例でございます。

中学校では、2年生で体験学習、職場体験を実施しておりまして、今年度は町内外66の事業所でお世話になりました。生徒が各自選択した職場において体験することを通して、その職業への理解を深めるとともに、人の役に立つ喜びを感じることもできています。

このような体験活動は、「好きなこと」「自分にできること」「得意なこと」の発見等児童生徒の個性の伸長にもつながっております。

また、道徳や特別活動では、「希望や勇気」「自己の生き方」を考える時間を大切にしております。授業においては、日本や世界のいろいろな分野で活躍する人の教材を通して、その人に憧れ、夢を持つことにつながったり、「なりたい自分」「将来の職業」について考えたりする場となっております。

このような教育活動を基に、児童生徒一人ひとりが夢を持ち努力することにより、綾川町の誇れる社会人、職業人となるよう土台作りに努めてまいります。

以上、質問にお答えします。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○3番（浜口）はい、議長。

○議長（河野）浜口君。

○3番（浜口）再質問させていただきます。ご丁寧なご回答ありがとうございます。

夢を持つことと同じく、その一方で、我々の世代、私たちは昔から、お米を食べるたびに、ご飯を食べるたびに、「作ってくれたお米を作ってくれたお百姓さんに感謝をなさい」と父母からさとされました。そして私事で恐縮ですが、長年勤めた中小企業では、給料の高い安いに関係なくして、勤勉で休むことなく働く社員がいてこそ、企業、会社は成り立っていることを実感させられました。

市町村、県、国も、勤勉な公務員がいて成り立っております。その勤勉で働く勤労者があって、社会が、国が成り立っており、その働く方々に、感謝することができる教育をお願いするよう問います。

○教育長（松井）議長。

○議長（河野）松井教育長。

○教育長（松井）はい。

○議長（河野）教育長。

○教育長（松井）再質問の内容ですが、ごもっともなことでございまして、そういうバランスのとれた、いわゆる知識、それから体力、それから情意面の気持ちの素直な、そういう子どもたちを育てるとというのが学校教育の基本でございますから、そういったことを目指して、各学校とも、先生方取り組んでおるわけでございます。

将来に向かって綾川町のためにとか、日本のためにとか、そういうふうなですね、大きなねらいとしてはそこにあるというふうに思っております。

ですから、ちょうど小中学校というのは、その基礎、芽を育てる場だと考えていますので、なかなか成果としては一気にはいかないと思いますが、将来的な目標としては、そういったところを目指して、本当にバランスのいい、そういうような人格を持った生徒を育てようということで取り組んでおりますので、今後ともまたご指導よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○3番（浜口）はい、議長。

○議長（河野）はい、浜口君。

○3番（浜口）再々質問というよりも、お願ひであり、要望でございます。夢を持ち、そして感謝の心を忘れない。そのような勤労を尊び、夢を持ち感謝をする教育をお願ひしたいと、強く強くお願ひいたします。

○議長（河野）以上で浜口君の一般質問を終わります。